

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	介護予防を包摂した口腔保健の実践力を修得するための教育プログラム ー地域包括ケアシステムに生きる歯科衛生士の育成ー				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部・講師	氏名	山本 智美
	研究分担者	所属・職名	京都光華女子大学短期大学部 ・准教授	氏名	森野 智子
		所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	長谷 由紀子
		所属・職名	短期大学部・助教	氏名	中村 和美
		所属・職名	短期大学部・教授	氏名	仲井 雪絵
	発 表 者	所属・職名	短期大学部・講師	氏名	山本 智美

講演題目
通いの場における在宅高齢者の口腔機能向上を目指した 介護予防推進事業実習教育プログラムの検証
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】厚生労働省はフレイル対策の具体的な施策として、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」を打ち出し、2024年度（令和6年度）までにすべての市町村で実施されることとなった。フレイル予防の重症化予防・発症予防のために口腔機能の維持・向上は重要な役割を果たすことが多くの研究によって報告されている。 高齢者の口腔機能の維持・向上に関し、この一体化事業を地域に導入し成果を発揮するには、歯科衛生士の参画が必須である。しかし現時点では全国の歯科衛生士養成校において地域の現場で実践ベースの教育がなされていないことから、本学科では全国に先がけて、「通いの場」における介護予防推進事業実習を令和5年度に導入した。本研究の目的は、「通いの場」として静岡市内に開設されているS型デイサービス（いきいき教室）のうち本学短期大学部歯科衛生学科実習施設である4か所において、運営スタッフによる他者評価と学生の自己評価を基に、今後の実習課題や改善点等を抽出・分析するとともに、学生の実習レポートを量的・質的に分析し、歯科衛生士教育としての学修効果を検証することである。本研究は静岡県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 6-18）。 【結果と考察】令和6年度本実習終了後、運営スタッフのうち同意の得られた39名を対象に他者評価としての無記名自記式アンケート調査を実施した。学生には実習自己評価（運営スタッフと同じ項目・内容）を実施し、成績評価終了後、同意の得られた令和6年度本学歯科衛生学科2年生47名の回答を分析の対象とした。評価項目は事前見学（情報収集）、計画、実施内容、媒体説明、参加者への対応の5項目（4段階：できた、少しできた、あまりできなかった、できなかった）である。分析の結果、事前見学（情報収集）では「できた」と回答した者が運営スタッフ27名（71.1%）、学生22名（46.8%）、計画では「できた」と回答した者が運営スタッフ29名（78.4%）、学生19名（40.4%）、実施内容では「できた」と回答した者が運営スタッフ26名（78.8%）、学生12名（25.5%）、媒体説明では「できた」と回答した者が運営スタッフ24名（72.2%）、学生19名（40.4%）であった。上記4項目の回答分布において運営スタッフと学生との間に有意な差が見られた（$p < 0.05$；Fisherの正確確率検定）。今後は学生の実習まとめレポートからキーワード等を抽出し、質的な分析を行う予定である。